

令和7年度第1回箕面市総合教育会議

◆ 日時：令和7年 10月7日（火）13:00 ～ 14:00

◆ 場所：箕面市役所本館2階 特別会議室

◆ 出席者：

【箕面市】

原田市長

【箕面市教育委員会】

藤迫教育長、高橋委員、酒井委員、飯田委員、荒木委員、桑野委員

【箕面市総務部】

村田部長、野澤副部長、山本室長

【箕面市教育委員会事務局】

久下教育次長、藪本局長、今中担当部長、浅井担当部長、三島副部長、
高取学校教育監、濱口担当副部長、山田担当副部長、山根担当副部長、
遠近担当副部長、小木曾室長、谷尾室長、皆川室長、徳留室長、多々館長、
渡邊室長、野村担当室長

◆ 傍聴人：5名

◆ 議事内容

（事務局：藪本局長）

- 定刻となりましたので、ただいまより令和7年度第1回箕面市総合教育会議を開催いたします。
- 本日の司会進行を務めます箕面市教育委員会事務局子ども未来創造局長の藪本でございます。どうぞよろしくお願いいたします。
- はじめに原田市長からご挨拶をお願いいたします。

（箕面市：原田市長）

- 皆さんこんにちは。ご紹介をいただきました箕面市長の原田亮でございます。
- まずは、教育委員の皆様におかれましては、公私何かとご多忙の中、こうして総合教育会議にご出席を賜りまして誠にありがとうございます。
- また、平素は本市の教育行政各般にわたりまして大変なご指導、ご協力をいただいておりますことも併せて感謝御礼を申し上げたいというふうに思っています。
- 今回、総合教育会議で主な議題とさせていただいておりますのが、生涯学習関係事務の市長部局への移管ということで、今までにない大きな転換をさせていただきたいということで、今日様々なご意見を頂戴したいというふうに思っております。

- 今まさに、私が就任してから1年が経ちまして市役所の組織改革を進めさせていただいております、その一環として今回市長部局に移すという議論をさせていただきました。
- この間様々な経緯があって、後ほど話す場もあるんですが、もう今併せていろいろ私の思いなんかもお伝えをさせていただくと、例えば、先日、大阪大学と一緒に船場の図書館の運営をさせていただいてるんですが、その取組が、ライブラリーオブザイヤー2025の優秀賞を受賞したということで大変嬉しいニュースがありました。
- そもそも箕面市は、人口14万人に対して図書館が7館ということで、例えば池田市だと人口10万人に対して図書館が2館ということで群を抜いて、この図書館の数も多くて、またそこに配置させていただいている司書の数も多い。
- 貸出冊数で見ても、人口10万人から15万人の自治体で見ると、全国で2番目に貸出冊数が多い。1位は、武蔵野市です。それぐらい読書習慣があるまちということで、今回こうした賞も受賞できたのは本当にうれしく思っております。
- また、スポーツの面で見ますと、先日サントリーサンバーズ大阪さんの優勝報告会に、我々出席させていただきましたが、SVリーグ初代王者のサントリーサンバーズ大阪さんの練習拠点があって、そういう地元に活躍していただいているスポーツチームがあって、他にもガンバ大阪さんとパブリックビューイングを初めて萱野東小学校で開催をさせていただいたり、また新しい取組として、大阪エベッサさんと包括連携協定を結ばさせていただいたり、岩谷産業女子陸上競技部の皆さんの寮があるということで、今年の箕面スポーツカーニバルふれあいフェスティバルでも、指導していただくような、取組を進めさせていただいております。
- そういった中で、来年は市政施行70周年という大きな節目の年であります。そうしたところからも、アート・文化芸術の中で、アートとそして図書館、読書習慣、こういったところに力を入れていきたいということです。
- 例えば先ほどお伝えしたような貸出冊数を来年は全国1位にしていくと。市民を挙げて、市を挙げて、図書館で本を借りたりして、読書習慣を来年1年しっかりとつけて、貸出冊数も1位にしていく。
- また、アートのまちということで、市役所をはじめ、公共施設に今年中に200点のアート作品が設置されるというような状況の中で、民間企業とも連携して船場でアートの大きなイベントを来年考えています。
- また、直木賞作家の今村翔吾さんが経営する本屋さんが箕面にはあって、今村翔吾さんとも連携をして、今村翔吾さんの繋がりでの有名な有名作家を呼んできていただいたオーサービジットの取組も来年は進めさせていただくということで、文化、芸術、スポーツ、そして図書館、こういったところに本当に

今、力を入れて進めていきたいという中で、もちろん今も教育委員会として力を入れていただいているからそういった結果が出ているわけでありますけれども。

- より、市長部局と連携を密にして、市民の全域にわたって、そういったところを強化していきたいという思いもあって、そういった部局を市長部局に移させていただいて、より一体的に力を入れていきたいということです。
- もちろん関係団体などのお声もお聞きをしながら、今回の組織改革をさせていただきますが、これからもそういった地域団体と教育委員会さんの関わりは引き続き、絶やすことなく、これからも進めていければというふうに思っておりますので、様々なご議論いただきまして、ご理解いただきますようによろしくお願いを申し上げまして、長くなりましたが私からのご挨拶とさせていただきます。
- 本日は、よろしくお願いいたします。

(事務局：藪本局長)

- 原田市長ありがとうございました。
- では、早速会議事項に入らせていただきます。議題「生涯学習関係事務の市長部局への移管について」に移らせていただきます。
- まず担当から資料によりまして、本件について説明をさせていただきました後、意見交換に移りたいと思います。では、よろしくお願いいたします。

(別紙 1～3 に基づき事務局から説明)

(事務局：藪本局長)

- ありがとうございます。それでは早速意見交換に移ります。
- 市長から教育委員会へのご意見、また教育委員会から市長に対してのご意見、どちらでも結構でございます。
- ご意見ございましたら挙手にてお知らせください。よろしくお願いいたします。

(箕面市教育委員会：藤迫教育長)

- 先ほど説明があったように、今日は決定する会議ではないので、市長に出席いただいて、教育委員会からの意見をざくばらんに言うということですので、ぜひ、この話についてはもうかなり前から協議会などでは話をしていますけれども、こういう公式な、公開の正式な場ですので、同じようなことでも、率直に意見を言っていただきたらと思いますので、よろしくお願いいたします。

(箕面市教育委員会：荒木委員)

- 教育委員の荒木です。よろしくお願いします。
- ある程度理解できていて、しっかり資料も作ってくれているのでわかるんですが、今年度の2025年度からの教育大綱があると思うんですけど、その理念や方針はそのままでいくということで理解はしています。
- ただ何か、その教育大綱を作ったときは、教育委員会目線で社会教育等のある程度は考えていただいていたと思います。
- ですが、このたび市長部局に移管するという事で、まちづくりとかそういった目線に変わることについて、言葉の見直しであったりとか、目線の見直しであったりとかというのは、変更する必要性は少しでもあるのではないかと感じたので、少しその辺をそのままスライドでいくというところを改めて確認しておきたいなと思いました。

(箕面市教育委員会：藤迫教育長)

- そもそも教育大綱は首長が作ることになっています。あれはどちらかというと「首長と教育委員会の契約書」と私どもよく言っているんですね。
- 法制度でいうと、やはり市長が教育部門に口を挟むのはかなり制限されている。けれどもそれでは駄目ですよねということで、法が変わって、教育大綱なるものを作って、しかもそれは総合教育会議にかけて決定しなくてはならないことになっていますので、まず1点目、こちらきっちりまだ決まっていないですけども、今教育大綱は3分野が入っています。
- 今度生涯学習が教育委員会からなくなるから今後の教育大綱は2分野のことしか書かないという考え方は違うと思っていて、この生涯学習が市長部局に行っても、やはりこの3部門は立てたら良いのではないかと今私は思っています。
- 2番目の荒木委員の生涯学習部門だけ勝手に動いてしまう懸念があるのではということについても、やはり総合教育会議で我々の意見を市長が聞かなくてはならないことになっていますので、しっかり意見を言っていったら良いのではないかなと思っています。以上です。

(箕面市教育委員会：荒木委員)

- 今回移管することによって、市長のリーダーシップでスピード感ある施策が進むことは期待できている中で、市民から見て、映える取組だけで終わらせてほしくないなというふうに思っていて、例えば、このスポーツ、文化、文化財、社会教育機関があるけれど、その中身というのが、今のところ市長部局に移管するってということだけ決まっていますので、何かその辺を少しパフォーマンス主体ではなくて、細部まで意識してほしいなと感じました。以上です。

(箕面市教育委員会：藤迫教育長)

- 私も教育委員会協議のときにいろいろ意見を言わせてもらっていますが、やはり生涯学習って大きいですね。人が一生涯の間に豊かな暮らしをするためのものだということで、大きいですね。
- 自分で自分のことを否定することになりますが、教育委員会はどうかというと、なかなかやはり一生涯に目をやるというよりも、どうしても若い世代を中心に見てしまうというデメリットがあるのかなというふうに思っています。
- そもそも、市民の信任を受けた市長が、その市のまちづくりを大局的な見地で作りたい、生涯学習部門のスポーツや文化を含めてやりたいと思うのはすごい自然なことだと思うんですね。だからこそ法律も変わって、それまでは教育委員会がグリップして首長の意見に左右されては駄目となっていたものが、先ほど説明にあったように段階的に、まちづくりを大局的に所管している市長が生涯学習を取り込むということは、自然なことでおかしくないなと思っていて、私は大賛成です。
- 後ほどまた意見を言いますけれども、移管したからと言って教育委員会が何か変わるかということではなく、逆により充実したものになるのかなと思っています。言いかたを変えると、もし移管した後の状態を教育委員会側から見ると、あまり景色は変わらないのではないかなと思っています。
- 市長から見ると景色が大分変わると思います。スポーツや文化、いろいろ教育委員会が所管していたものを、市長が意見するということで景色が変わると思いますが、教育委員会の側としては変わらないし、逆に変わったら駄目だと思っていますので、それは仕組みづくりでしっかりやったら良いのかなと思っています。
- 総じて一応皆さんね、異論はないという前提なんですよ。この間話をしておりまして、それはそれだなという話です。

(箕面市教育委員会：飯田委員)

- 教育委員の飯田です。
- 今回の移管に関して教育委員会としては、0歳から18歳までの教育にしっかりと注力ができるあたりそういう意味では、前向きな発展にしなければならないなあというところは思っています。
- ただ、生涯学習に関しては、やっぱりその社会教育の理念であつたりとか、政治の中立性っていうのはやっぱり担保されなければ、市民サービスが脅かされるなという点はやっぱり懸念はしています。
- ただどちらにしても市として、市民の学びの権利の部分を誰一人としてとりこ

ばさない教育っていうのが、箕面市らしい行くべき形ではなかろうかとは思っています。

- 市長部局に行くっていうことは透明性であったり、やっぱり KPI の部分、数値化をしなければならないっていうところになると思うんですね。
- ただこの教育ってなかなか、その人の中に芽生えて根づいてなかなか外には出てこないけれども、必ずその人の礎になってるその見えない部分の評価っていうところは、しかねるところはあると思うんですけども、その辺りの見えないところから、そこだけを忘れていただきたくないっていうところはちょっとお願いしたいかなと思っていました。
- 表のほうでも、別紙 2 でしたかね。これだけ移管が進んでいるっていうところで、移管したのが 3、4 年前から始まっているので、そのエビデンスであったり、ちょっとハレーションであったりっていうところの報告がまだ上がっていないっていうところは聞きますけれども、別の市だったら、これ図書館を民間に移すっていう話も聞いたりとかすると、一旦教育委員会から離れることによって、やっぱり政治色であったりとか、その思想的なものに左右されてるのではなかろうかっていう、やっぱり懸念も感じております。
- なのでちょっと 2 つ、1 つとしては、どこかモデルとする町は検討しているのかというところと、その専門性と中立性の部分に関して、どういうふうに担保するために、構想を作るのか、協議会を作るのかとか、そういう取り組み体制と組織ですね、それは聞きたいなと思っておりました。
- ただ、私としましては、どこがもっても、市民サービスの教育はもう箕面市の質の高さで認められていると思うので、楽しみでしかないというところはお伝えしておきます。以上です。

(箕面市：原田市長)

- いろいろご意見ありがとうございます。教育大綱に齟齬がないかはちょっと再度しっかり確認したいなと思いました。
- 教育大綱を 3 本柱にしたのも 3 本のほうが見やすいだろうということでちょっと構成までこだわったところではあるので、今後もその教育長が言っていたように 3 本柱でいくというのは続けていきたいなというふうに思っています。
- 映える取組だけというような耳が痛いご指摘もありました。市長部局に来ると、私自身も 4 年に 1 度選挙がある政治家というところで、やっぱり結果を求めてしまう部分が正直あって、全国学校給食甲子園にエントリーしてとか、なにか賞を取ったりとかこういうのを言いたがるんですよね。
- やっぱり市民さんも税金を投入するからには「いや、教育なんか 10 年かからないとわかりませんよ」っていう答えはなかなか許していただけないようなとこ

ろもあるから、貸出冊数ナンバーワンになろうよとか、どうしてもそういった評価指標の部分で求めがちなところがあるので、そこはしっかり腰を据えてやっていくと。また見えていないようなところにもしっかり力を注いでいくということは耳が痛い中でもやっていかないといけないなというふうに思いました。

- ただ、やはり今までですね、本とか芸術とか、図書館とか、文化芸術スポーツはあまりこう市長のメインの施策に据えられてなかったんじゃないのかなあというふうに思っていて、今回市長部局に移すっていうのは、拡充するんだと、今まで以上に充実していくんだという表れに思っていたきたいなと思ってます。
- 0歳から18歳だけ、子どもだけじゃなくて、全世代でこういう生涯学習、文化芸術スポーツを力を入れてやっていくんだというところの表れとして捉えていただきたいなと思っています。
- ただそれは裏を返すと、私のもとではそれが力を入れて重点施策として今回行われるんですけども、その独立性の部分ですよ。今回その社会教育団体からも、市長が交代した場合にどうなるんだというところは、裏腹で、もちろんリスクではあると。教育委員会においていたほうが市長から独立してるわけですから、独立して行うことができるのは間違いないんですが、ただ、市長部局に来ることで強化もすることができるということで今回力を入れていきたいということでありますので、この流れは閉ざさないように、これからも文化芸術スポーツといったところに力を入れていく箕面でありたいなというふうに思っています。
- なので今、図書館の話にしても、箕面がフロントランナーだと思ってますので、正直参考にしているまちっていうのはなくて、うちが先頭走ってるんだと、それをさらに高めていくんだという強い思いを持っておりますので、また何かどこか先行自治体があれば教えていただければなと。
- ただアートというところでは結構いろいろ見に行かせていただいていて、先日も茨木市のアートの取組などを学んできたんですけれども、そういったところを本当に力を入れて、箕面のまちに新しい「文化・芸術・スポーツのまち箕面」というブランドをつけていきたいなというふうに思っておりますので、今まで以上に拡充していくんだというところの強い思いを汲み取っていただきましたら、ありがたいなと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

(箕面市教育委員会：藤迫教育長)

- 今、飯田委員のご意見の中で図書館の選書の云々というくだりがあったんですけども、ちょっとそこを補足しておきたいんですけども、図書館が市長部局に移管してもこれはもう、図書館法に基づく社会教育施設であることに間違いありませんの

で、この法に基づいて図書館の選書や運営などについては、引き続きそういう中立性や継続性、安定性の確保、地域住民の意向の反映などを学校教育との連携を図りながらするということですし、箕面市立図書館資料収集要綱っていうようなものもあってそういうことにならないような基本的に仕組みがありますので、市長のところに移ったから、もう市長の好きな本ばかり、箕面の図書館どこ見ても市長の好きな本ばかり並んでるよということにはならない、仕組み上ならないっていうようになってますので、そこをご心配いただくなくても結構かなというふうに思います。

（箕面市：原田市長）

- これ本当に市長部局になることによって、より責任が明確化されるというか、教育大綱でこの部分に力を入れて欲しいということをお伝えしましたがけれども、やはりその責任が今回市長に来るので、結果も含めて、経営責任であったりとか、より曖昧な部分もあるじゃないですか、教育委員会にこれやって欲しいって予算を措置するんですけど、今回はその権限が市長部局になれば、もう私の責任のもとで行われるということで、結果も含めて責任が明確化されるのかなというふうに思っています。
- それに伴ってやっぱり人材の育成というのは本当にしていけないといけないと思っていて、例えば芸術の面でいくと、芸術の振興をしようと言っても、やっぱり職員さんも別にその専門家であるわけじゃないので、例えば何かこう、今、公共施設に芸術作品飾っていますけど、別にそのキュレーターみたいなことができるわけじゃないので、その飾りかたが本当にいいのかとか、その飾る分野がそれでいいのかとか、いろいろ今は過程で、まだまだできてないなあと思ってるところが結構あるので、そういった人材育成ももちろん力を入れて今後はやっていきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

（箕面市教育委員会：桑野教育委員）

- 教育委員の桑野です。よろしくお願いします。
- 事前にお話も伺ったり読ませていただきました。組織編成を見直して、変化することによって見えてくるものがあるなというのは常々思っています。直接市長からもお話を伺って、これまでに固執しすぎずに、よい面をどんどん見いだして伸ばしていくことはとても大切なことだなと思っています。そういう視点で、資料を読んだり、説明を聞かせていただきました。
- 1点申し上げるとしたら、「教育委員会との連携」という表現がいろいろな箇所に出てきます。
- これまで教育委員会に入っていた図書とかスポーツが、市教委や学校現場とど

う連携していたのかということの振り返りをしておかなければ、市長部局に移ったとして、今後、具体的にどんな連携をしていくのかということが後回しになるのではないかと危惧します。実際の移管スタートの前に、どう具体的に連携してきたかを整理しておかねばならないと考えます。

- たとえば、図書館のイベントで箕面・世界子どもの本アカデミー賞というのがあるんですが、あれに学校図書館司書がどう関わり、そして学校現場の図書委員会との関わりの中で取組として成立していたと認識しています。市長部局に移るにあたり、図書にしてもスポーツにしても、就学前の0歳から18歳までの教育が下支えの土台となってきたことを改めて実感しています。
- 子どもたちが、学校から郷土資料館や船場図書館に見学に行くことによって、今度は家から行ってみるというような、そういう流れが確かにあったので、そういったことを連携の基礎にして、そういう意味で「連携」として具体的に何をするのかということを考えておく必要があると考えています。
- 幾つかご説明いただいた中で、「連携を今現在から、この先も大切だと考えている」と多々お話に出てきたので、学校教育が各家庭の興味とか関心を育成していると思っているので、それがひいては0歳から18歳にかかわらず、もっと長い目で見た、市民の学びの機会を保障することになると思います。
- そして、市長もおっしゃったんですが、サッカーのパブリックビューイングに申し込んで当たったので行って参りました。あのパブリックビューイングの中であんなに応援される市民のかたの姿を見ました。箕面市がそういう機会をどんどん提供していただくことは大切だと思いました。先日、小野原図書館の視察でも、そこに来ている親子さんを見ましても、やっぱり学校教育の中での学校司書さんの配置の効果は非常に出ていると思いました。
- よって、これまでから変化して、いくつかが市長部局に移管されたあとも、学校教育との連携は本当に必要不可欠であると考えました。
- 最後に、文化国際室のかたにお世話になって、ハット市と箕面市内の学校が日頃よりZOOM会議をしたり、過日は彩都の丘学園にハット市の子どもたちが来られて交流されました。文化国際室のかたが実際ハット市に行かれて、お手紙を携えて行ったださり、その手紙に基づいてZOOMで会話するというような取組もありました。連携あつての今のつながりだと思いますので、そういう具体を知っておいていただきたい。子どもたち、ひいては市民の皆さんにとって、さまざまな取組が身近なものとして、感じられるのではないかなと考えます。
- いろいろ述べましたが、引き続きのご理解とこれからの連携もよろしくお願いします。

(箕面市教育委員会：藤迫教育長)

- 今の桑野委員の話を聞いてて大きく2点ですね、その連携について、確かにそうだなと思います。
- 移管するにあたっては、色々な1つずつの取組に色々な経過や色々な歴史があって成り立ってるものですから、それをきっちり連携しないと、見えている部分は連携できてるんですけど実はというところまでしっかり移管しないといけないと思っています。
- 例えば具体例で出た箕面・世界子どもの本アカデミー賞なんかは、一人の学校司書が自分の発案で作り上げたものなんです。だからそこはみんな大事にしているんです。
- でもそこは見えにくいから、例えば移管したときに「もうこの取組は学校司書の人は学校で忙しいから参加しなくていいから公共図書館の司書さんだけでやろうか」というような、上辺だけ見たらそれでもできそうな感じなんです。
- やっぱりそういう歴史があるという、連携ではひとつひとつその今一例で言いましたけども、そういうことはきっちり見える形で引き継がないといけないと思いました。
- もう1点は、ガンバ大阪の試合僕も観に行きましたけど、みんな熱い思いですよ。
- おそらく今度市長部局に移ったら、この熱い応援っていうのを医療の観点とか高齢福祉の観点から入っていくという見方が、残念ながら我々にはそこまでの視点はなくて、スポーツの振興みたいな、ガンバ大阪とともに子どもたちにスポーツに馴染んでもらうとか、そういう視点しか見えてないのを、今度市長はみんな元気になるんやったら、これを医療や高齢福祉で使うとか、そういう意味での一番初めに言った、より良いもの、広がりのあるものになっていくのかなっていうふうには思ってますので、それはぜひ期待しておりますので、よろしく願いしたいと思います。

(箕面市：原田市長)

- 今回本当に一番心配してたのが、この社会教育関係団体の皆様がどういふのかなあというふうに思っていて、それが本当に賛成で反対の声も出ることなく、賛成をしていただいているというのは本当にありがたかったですし、一番心配してたところをクリアできたなというところです。
- ただやっぱり皆さん連携は引き続きとって欲しいと。今までの繋がりであったりとか人間関係を閉ざすことがないようにという声は、やっぱり大きかったなというふうに思っているんで、それはもちろん前提として、それを基礎として、より強めていくということだというふうに思っておりますので、今いただいたご意見を踏まえて、より連携をしっかりと、進めていくために今までの連携のあ

り方とか、今までの経緯、歴史なんかも紐解きながらより強めていくということをして参りたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

(箕面市教育委員会：藤迫教育長)

- 関係団体の人も概ね賛成っていう理由はこの通りなんですけども、完全に手放して賛成ということではなくて、やはり市長が変わったらどうなるのかとか、教育委員会はもう今度からノータッチで他人事になるのかという不安はおっしゃられているんです。
- 我々はその不安やいただいた意見がそうではないですよという約束をきっちりして、実際にそうしていかないと、例えばスポーツ推進委員さんが「教育長今度よろしくお願いしますね」って言ったら「いや、僕はもうその日はもう休ませもらうんで、僕の所管でないんで市長部局に言ってください」といったことになるはずがないですが、そこは多分そういうふうに思われる人がおられる。
- だから教育委員会に何を言っても私たちの仕事ではないって言って今までと違ったことにならないかというふうな懸念は意見としてもらっているみたいなんですけども、そこはしっかりやっていこうと思います。

(箕面市教育委員会：高橋委員)

- 教育委員の高橋です。
- いろいろご説明など皆さんのお話を聞いて非常に感銘を受けているところです。
- 最初にこのお話をお聞きしたときは、やはり先ほどのお話でもわかるように原田市長は非常に熱意を持ってまちづくりをされたいかたであるということがよくわかりますので、もしかしてその熱意から比べて教育委員会の動きがゆっくりに見えているため「自分でやるぞ」みたいなところがあるのかなと少し思ったりもしましたが、そのような単純な話ではないということがよく理解できました。
- 少し懸念として、市長がこのような熱意があるからこそ市長部局にお任せしても大丈夫だと皆さんは考えられているかもしれませんが、質問などにもあったように、市長が代わった場合はどうなるのかと心配をされているかたはやはりいるのではないかと思います。
- もちろんそういうものはどのような市長が来られても法律で一定程度担保されているから大丈夫ということは理解していますが、昨今、外国人の排斥などいろいろそういうニュースを耳にする中で「外国人の子どもに日本語教室をやるのか」「そのようなものにお金をつけるのか」など、そのような考え方の人も出てこないこともないかと思います。そうなったとき、国際交流協会さんなどに依頼している日本語教室をやめたりするのかと、そういう心配をされるか

たは確かにいらっしゃるのではないのかなと思いますので、そういうかたがたへのケアも考慮いただけたらなと思っております。

- また、ちょうど部活動の地域移行が行われる時期であって、これは前にいらっしゃった山元教育委員が「革命的なことで、まちの風景が変わる」とおっしゃっていましたが、僕も同じように思っています。放課後の風景がおそらくガラッと変わることだと思います。このようなときに教育委員を務めていて非常に責任重大だなと思っていたところではありましたが、生涯学習の部分で地域移行される部活動に代わって設置される部分も市長部局に移行されるということであれば、個人的には少し肩の荷が下りるようなところもあり、ありがたいなと思うところです。
- また、市長が先ほど「責任の所在が明確になる」というふうにおっしゃいました。これは気持ちとしては市長が責任を持ってやり遂げるという意味だというふうに受け止めております。先ほどからいろいろ議論されていることもありますが、ぜひ原田市長の力でこのまちを前向きに、前に前に発展させていただけるように、この移管を踏まえてお願いしたいなと思っております。引き続きよろしくお願いします。ありがとうございます。

(箕面市教育委員会：藤迫教育長)

- 申し訳ないですが、地域展開は移行期ですので、完全に安定飛行するまでは学校教育との関わりがあります。将来的、最終的な姿として、それがどの時点で到達するかわかりませんが、制度的にも心配なく、完全にひとり立ちしたという段階になると、市長部局に移りますが、それまではしばらく教育委員会の所管ですので、よろしくお願いします。

(箕面市：原田市長)

- ただ、予算の措置はしっかりして、地域移行後も保護者のかたが会費などを払えるような措置を責任を持ってやって参りたいというふうに思っておりますのでよろしくお願いします。
- 先ほど市長が代わったらどうするのかというところですが、もちろん教育委員会という独立したところでやっていたほうが安定はするので、本当に裏腹で痛いところだなというふうに思いますが、先ほどお伝えしたような、図書館の貸出冊数が多い、図書館が多い、司書さんが拡充しているなど、そのような部分であったり、ガンバ大阪、サントリーサンバーズ大阪、岩谷産業女子陸上競技部など、既にあるものに今回しっかりと光を当てて、まちのブランド化をすると、文化芸術もですが、そもそも盛んなところにしっかりと光を当てて「箕面市はこういうまちだよ」「そこが強いよね」というブランド化を私のときに

しっかりとして、価値を見出して、「やはりこれはすごく大事だよね」という意味付けをすることで、今後の市長も「それは箕面ですごく盛んなので大切に残しておかないといけないよね」というふうになろうかと思います。

- また、そうなるようにしっかりと今回ブランド化していきたいというふうに思っておりますので、「さすがにそれを手放すとかそこに力を注がないのは勿体ないよね」という状況を今回しっかりと作り出して、私が代わったとしても、ずっとそれが継続されるようになればというふうに思っております。
- また国際理解のところも、箕面市はそもそも大阪大学外国語学部、インターナショナルスクールがあり、今も外国人市民のかたが3,000人いて、やはり国際理解も進んでいるまちだからこそ、多民族フェスティバルなどのイベントがまちを挙げて行われているわけなので、そこもしっかり継承されるように力を尽くして参りたいと思っていますので、引き続きご指導よろしくお願いします。

(箕面市教育委員会：酒井教育委員)

- 最初ちょっと皆さんと同じような話もしようかなとは思ってたんですけど、図書館とか、スポーツチームとか、そういうのに光を当てて、キラキラとした箕面市を、市民の人にアピールするということもあるんでしょう。
- それも大事なことだと思うんですけど、やっぱり今まで図書館がそういった拡充をしてきたりしたのっていうのは、コツコツと市民と行政の人たちが積み重ねてきた結果だと思うんですね。
- やっぱり実がすごい大事なかなと僕は思っていて。見栄えじゃなくて、実態が大事だと。それ最初に荒木委員がおっしゃったことは多分そういうことだと思うんですね。
- 私自身は、この箕面市ってこの規模の人口の町の中では非常に成熟していて恵まれてる市町村なのかなと思っていて、やっぱりその今の位置付けから何をやるかっていうことをやっぱりちゃんと考えないといけないのかなっていうふうに思ってます。
- 時代の流れ的に他の市町村とかと比べても、その機動性という言い方をしているかわかんないですけども、もっと組織改革して、いろんなことがしやすくしていくというのは今後生き残っていくとか、そういうレベルの話じゃないかもしれないですけども、箕面市がさらに発展していくためには、必要なんじゃないのかなっていうふうに思うので、僕はどんどん市長にアクセル踏んでやっていってもらったらいいいのかなあというふうに思っています。
- ただやっぱり「教育委員会から移管する」とか、「ちゃんとやってくれるんだろうか」とか、変化に対してやっぱり皆さんいろいろ懸念すると思うんですね。
- それはもう今日この場でちょっとどうこう言って全部議論が尽きるわけではな

いので、これから何年もかけて「我々はちゃんと市長見張ってますよ」という趣旨もあると思いますし、皆さんの意見もあると思いますし、そういうことがいえる土壌はあるのかなというふうには思っています。

- なので、私は今の箕面市を踏まえて、市長はわりと説明されるときに、「この規模で図書館がいくつあって今こうなんですよ」という、やっぱり箕面の今の位置付けですね、それをちゃんと説明した上で、こういうふうにしていきたいっていうのをおっしゃるので、非常にわかりやすいし、そうかなというふうに思うので、そういう考え方でどんどんやっていってもらいたいなというふうに思います。
- ただやっぱりキラキラしてる話だけじゃなくて実のところってやっぱりどうしても切り捨てられていたり、おざなりになっていたりしてしまうようなところはあると思うんですよね。
- 一度やっぱり、1が0になってしまったりとかすると、また1に戻すのって本当に大変だと思いますし、3が2になったり、1になったり、それも大変なんですけど、やっぱり、スポーツに関しても、そういうみんなが好きなスポーツだけじゃなくて、私はスケートボードパークとかすごくいいと思うんですよね。競技人口でいうとそんな多くないかもしれないけれども、そういう人にもちゃんとそういう場所を提供して、箕面市以外からも人を呼び込んでとかっていうきっかけになると思うので、やっぱりこういう議論をしながら、そういうところにもスポットを当てていて。私はどうしても立場的に、ブレーキのほうの話ばかり出てたんで、僕はブレーキの話はみんな今後もすると思うんですけど、どんどんアクセル踏んで、箕面のまちを良くしていただける施策をどんどんしてもらえれば、いいのかなあと思ってます。
- そう思ったのはやっぱり、例えば今回の市長部局への移管の話が出たときに「概ね賛成」ってちょっと悲しかったんですよね。何か今まで教育委員会が担ってたものにみんな満足してたら、「いいやん今のままで」とってなってるのが、やっぱり教育委員会でやるっていうことにも限界があって、多分物足りないって感じてた部分があるから、今の市長がそういう判断をして、今の市長になら、きっと期待できると思ってる部分があると思うので、それは最大限頑張ってやっていただきたいなというふうに思います。よろしくお願いします。

(箕面市：原田市長)

- 今の話は、市長部局にもあって、例えば高齢者の健康維持とか、健康寿命を延ばすっていうのが、健康体操だけでいいのかって言ったら、決してそうじゃなくて、やっぱり幅広いスポーツにも親しんでいただいて、ガンバ大阪を応援するみたいなことも、本当はやらないといけないんですけども、やっぱり「0歳

から18歳はあっちで、こっちは高齢者だけだよね」とか、何かどこかでこういう線引がこっちにもあったんじゃないのかなというふうに思っているのですが、これはこっちに移すことによって、本当に0歳から18歳を飛び越えて、もう全世代で全部局で横展開、連携をして、市を挙げてやっていくっていう体制がとれるのかなというふうに思っているのですが、今が不十分というか、より強めていくというところでもありますので、何も今の教育委員会さんの今までの取り組みを否定するものでもないし、より拡充していくんだという強い思いを持って進めるんだというところは、これからも連携は引き続きやっていかないとはいけないので、これからも一緒になって取り組みいただければというふうに思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(事務局：藪本局長)

- 他、よろしいでしょうか。活発な意見交換いただきましてありがとうございます。今回頂戴いたしましたご意見をもとに引き続き検討を進め、次回、教育委員会定例会にて最終的な方針を決定して、正式に市長へ回答させていただきたいと思っております。よろしいでしょうか。

(異議の声なし)

- はい。ありがとうございます。それでは以上をもちまして、令和7年度第1回箕面市総合教育会議を閉会いたします。皆さん本日はありがとうございました。